

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	13-026	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Characteristics of developmentally early alcohol use disorder symptom reports: a prospective-longitudinal community study. 青年期および若年成人のアルコール使用障害発症の特徴：一般集団を対象とした長期の前向き研究</p>		
執筆者		
Behrendt S, Bühringer G, Perkonigg A, Lieb R, Beesdo-Baum K.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2013 Aug 1;131(3):308-15. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2012.12.024.		
キーワード		PMID
青年期、アルコール誤用、DSM-IV アルコール使用障害		23333293
要 旨		
<p>目的： 初期のアルコール使用障害(アルコール中毒および依存)あるいは青年・若年成人の発症について報告された前向き疫学研究はほとんどない。そこで、DSM-IV アルコール使用障害症状と欲求について、有病率および発症率、症状の数、飲酒パターン、DSM-IV アルコール使用障害の予測値、アルコール使用の量と頻度を検討した。</p>		
<p>方法： 長期の前向きコホート Early Developmental Stages of Psychopathology 研究参加者のうち4年後と10年後の2回の追跡調査に参加した14~24歳の地域の青年および若年成人2,039人を対象とした。DSM-IV アルコール使用障害症状、DSM-IV アルコール使用障害とその欲求を、ミュンヘン版統合国際診断面接(M-CIDI)を用いて評価した。</p>		
<p>結果： アルコール使用障害症状を有した多くの対象者は症状を1つだけ有した(47.2-55.1%)。アルコール使用障害の予測値はベースラインに比べて10年後は上昇した。アルコール使用障害症状、アルコール使用障害の報告は、これらの報告がない者に比して、飲酒頻度と量の増加に関連していた。ベースライン時のアルコール使用障害症状が、4年後または10年後に同じ状態だった者は36.4%未満であった。</p>		
<p>結論： 青年期または若年成人にみられたアルコール使用障害症状の頻度と傾向は、成人と変わらなかった。AUDSが持続していないことからこの年齢集団におけるアルコール使用障害の相当数が一時的であることを示している。しかし、アルコール消費量と関連することから若年期のAUDSの介入と予防を真剣に取り入れる必要がある。</p>		